

科目名	成人看護方法 I (急性) Adult Nursing I		担当教員 (研究室番号)	関根由紀 (504) 玉田 章 (307) 脇坂 浩 (306) 長谷川智之 (302)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	関根:yuki.sekine@mcn.ac.jp 玉田:akira.tamada@mcn.ac.jp 脇坂:hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp 長谷川:tomoyuki.hasegawa@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
科目 目的	成人期に突発的な疾患や外傷が生じて危機的状況にある人や、手術などの侵襲的治療を受けた人に生じる「身体機能の障害」、「生活機能におよぼす影響」、「ボディイメージの変化」に対する看護について学ぶ。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解)										
	関連する DP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断) H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安楽・安全・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法を受ける患者の特徴と様々な術後合併症を回避するための看護について理解することができる。 2. 急性期の医療行為(手術を含む)を受けた患者の感染予防の看護について理解することができる。 3. 人工肛門を造設する患者の機能の変化と術前と術後の看護援助について理解することができる。 4. 呼吸機能を障害した患者の機能の変化と人工呼吸器管理を含めた看護援助について理解することができる。 5. 循環機能の障害により心臓血管外科治療を受ける人の術前と術後の看護について理解することができる。 6. 脳血管障害により脳・神経機能障害がある人の看護について理解することができる。 7. 広範囲熱傷により身体防御機能に障害がある人の看護について理解することができる。 8. 蘇生人形を使用し、BLS (Basic Life Support: 一次救命処置)の技術を習得することができる。 											
成績評価方法 (基準)	定期試験(70%)、課題レポート(30%)を合計して科目可否の評価とする。 定期試験は学習項目にあげた成人看護学の急性期領域を出題範囲とし、看護師国家試験の準じた形式(多肢選択等)の筆記試験とする。											
再試験の有無と 基準等	定期試験を受験した不合格者には再試験を実施する。再試は筆記試験のみとする。											
教科書	特に指定しない。											
参考書等	系統看護学講座専門分野 成人看護学 [1]~[8]、[10]~[11] (医学書院) 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 (医学書院) 他、授業時間中に提示する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	成人看護学の学習範囲は急性期領域だけ取り上げたとしてもとても広いです。そのため、授業で学習する内容は限られた一部分となります。授業での学習はもちろんのこと、それ以外の内容も積極的に自分で学習をすすめる必要があるために事前課題と自己学習課題を提示します。 「演習」としている授業では学生個々の事前学習に基づき小グループで授業中に提示する課題についてディスカッションをしてもらいます。グループあるいは履修者全体で自分の考えを積極的に述べることを期待しています。 また、返却された課題レポートは、事前課題の他に提示された自己学習課題も合わせて「学習ノート」として1冊にまとめて、成人看護方法Ⅳや成人看護学実習Ⅰにも活用できるようにしておくことを推奨します。											
備考	成人看護学概論を修得していないと履修できない。 成人看護方法Ⅲ・Ⅳの先修条件となっている。											
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法
1回	周手術期の看護 術前・術後患者の看護					手術によって生じる侵襲や機能障害が身体・精神・生活に及ぼす影響を理解し、周手術期の患者の特徴と看護について教授する。 ・手術を受ける患者の術前・術後の看護の要点を説明する。 ・術中看護(患者管理)の要点を説明する。					玉田	講義
2回	急性期の医療に関連した感染看護					手術を含む急性期の医療現場における患者の感染予防対策について学ぶ。					脇坂 他	演習
3回	消化・吸収機能障害のある患者の看護					人工肛門を造設する患者を身体的・心理的・社会的側面からとらえ術前・術後の看護を考える。					関根 他	演習
4回	呼吸機能障害のある患者の看護					生命に直接影響を及ぼす障害として呼吸機能の視点から健康障害の特徴と看護援助を検討する。 ・人工呼吸器を装着した患者の呼吸管理とは何かを考える。					長谷川 他	演習
5回	循環機能障害のある患者の看護					生命に直接影響を及ぼす障害として循環機能の視点から健康障害の特徴と看護援助を学ぶ。 ・循環機能の障害により心臓血管外科治療を受ける人の術前・術後の看護を考える。					関根 他	演習
6回	脳・神経機能障害のある患者の看護					生命に直接影響を及ぼす障害として中枢神経機能の視点から健康障害の特徴と看護援助を検討する。 ・脳血管障害(脳内出血・脳梗塞・クモ膜下出血)により中枢神経機能が障害された人の看護を考える。					長谷川 他	演習
7回	身体防御機能障害のある患者の看護					生命に直接影響を及ぼす障害として皮膚の代謝機能の視点から健康障害の特徴と看護援助を学ぶ。 ・広範囲熱傷により複数の臓器に障害が生じた人の看護を学ぶ。					脇坂 他	演習
8回	急性・重症患者の看護 心肺停止状態への対応					蘇生人形を使用し、BLS (Basic Life Support: 一次救命処置)の技術を習得する					長谷川 他	演習

学 習 課 題

2回目からの授業は、事前課題に対して調べてきたことを基にグループワークで話し合う。毎回の授業で呈示される事前課題について「課題レポート」としてまとめて持参する。以下に課題の概要を記載するが、毎回の授業終了時に次回の課題の詳細を提示する。

課題に対する内容以外にも関連する事柄や疑問が生じた内容についても調べて、十分な自己学習がされたレポートを期待する。課題レポートは、毎回の授業終了後に講義室で回収し、各課題のルーブリック評価表における評価項目に沿って評価する。課題およびルーブリック評価表については、課題の詳細提示と同時にそれ以前に「資料レポート管理システム」にアップロードする。

- 2回目課題（事前）：周手術期（手術室・回復室等）における感染管理について
周手術期（手術室・回復室等）における感染管理のためのケアの工夫について 【評価対象】
- 3回目課題（事前）：低位前方切除術後に生じやすい術後合併症について
人工肛門造設後の術後早期に生じやすいストーマ合併症について
人工肛門造設患者の術前および術後の看護について
人工肛門造設患者が活用できる社会保障制度について 【評価対象】
- 4回目課題（事前）：呼吸の生理と呼吸不全の病態について
気管内挿管（気管挿管）や気管切開について
人工呼吸器装着について 【評価対象】
- 5回目課題（事前）：冠状動脈バイパス術について
冠状動脈バイパス術前および術後の看護について 【評価対象】
- 6回目課題（事前）：脳血管障害（脳内出血・脳梗塞・クモ膜下出血）について
開頭手術、脳血管内手術について
脳血管障害患者の看護について 【評価対象】
- 7回目課題（事前）：広範囲熱傷（熱傷の程度）について
広範囲熱傷における治療（応急処置、保存療法、外科的療法）について
広範囲熱傷患者の看護について 【評価対象】
- 8回目課題（事前）：一次救命処置の手順および注意点について 【評価対象】

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験や研究成果を活かして本授業の講義を行う。